

使徒 6 : 1-7

「こうして神のことばは、ますます広まって行った。」

6:1 そのころ、弟子たちがふえるにつれて、ギリシヤ語を使うユダヤ人たちが、ヘブル語を使うユダヤ人たちに対して苦情を申し立てた。彼らのうちのやもめたちが、毎日の配給でなおざりにされていたからである。

6:2 そこで、十二使徒は弟子たち全員を呼び集めてこう言った。「私たちが神のことばをあと回しにして、食卓のことに仕えるのはよくありません。

6:3 そこで、兄弟たち。あなたがたの中から、御霊と知恵とに満ちた、評判の良い人たち七人を選びなさい。私たちはその人たちをこの仕事に当たらせることにします。

6:4 そして、私たちは、もっぱら祈りとみことばの奉仕に励むことにします。」

6:5 この提案は全員の承認するところとなり、彼らは、信仰と聖霊とに満ちた人ステパノ、およびピリポ、プロコロ、ニカノル、テモン、パルメナ、アンテオケの改宗者ニコラオを選び、

6:6 この人たちを使徒たちの前に立たせた。そこで使徒たちは祈って、手を彼らの上に置いた。

6:7 こうして神のことばは、ますます広まって行き、エルサレムで、弟子の数が非常にふえて行った。そして、多くの祭司たちが次々に信仰に入った。

はじめに

数か月前、使徒の働きシリーズ説教を始めるにあたっての導入で、ルカが重要なポイントを示すために話を繰り返したことをお伝えしました。ですから、繰り返されている部分には注目しなくてはなりません。

今日の個所には、「こうして神のことばは、ますます広まって行った」という一節が登場します。これに似た表現は、使徒の働きで3度使われています。

その3度目をまず読みましょう。

使徒 19 : 20

19:20 こうして、主のことばは驚くほど広まり、ますます力強くなって行った。

これは、パウロの教会開拓の務めが完了したときの言葉です。

また、イエスを信じる信徒になった人々が魔術に関する本を焼き捨てた後のことです。

使徒 19 : 11-20

19:11 神はパウロの手によって驚くべき奇蹟を行われた。

19:12 パウロの身に着けている手ぬぐいや前掛けをはずして病人に当てると、その病気は去り、悪霊は出て行った。

19:13 ところが、諸国を巡回しているユダヤ人の魔よけ祈祷師の中のある者たちも、ためしに、悪霊につかれている者に向かって主イエスの御名をととなえ、「パウロの宣べ伝えているイエスによって、おまえたちに命じる」と言ってみた。

19:14 そういうことをしたのは、ユダヤの祭司長スケワという人の七人の息子たちであった。

19:15 すると悪霊が答えて、「自分はイエスを知っているし、パウロもよく知っている。けれどおまえたちは何者だ」と言った。

19:16 そして悪霊につかれている人は、彼らに飛びかかり、ふたりの者を押さえつけて、みなを打ち負かしたので、彼らは裸にされ、傷を負ってその家を逃げ出した。

19:17 このことがエペソに住むユダヤ人とギリシヤ人の全部に知れ渡ったので、みな恐れを感じて、主イエスの御名をあがめるようになった。

19:18 そして、信仰に入った人たちの中から多くの者がやって来て、自分たちのしていることをさらけ出して告白した。

19:19 また魔術を行っていた多くの者が、その書物をかかえて来て、みなの前で焼き捨てた。その値段を合計してみると、銀貨五万枚になった。

19:20 こうして、主のことばは驚くほど広まり、ますます力強くなって行った。

ここでは、魔術の書を焼いたことと教会成長が直接結びついています。
人々がもともと信仰していた宗教や過去の生き方に悪影響を及ぼしていたものを完全に断ち切ると、聖霊が神のみことばをとおして、失われたたましいを救うために働いてくださいます。
聖書の神は、ねたむ神です。

出エジプト 34 : 10-14

34:10 主は仰せられた。「今ここで、わたしは契約を結ぼう。わたしは、あなたの民すべての前で、地のどこにおいても、また、どの国々のうちにおいても、かつてなされたことのない奇しいことを行おう。あなたとともにいるこの民はみな、【主】のわざを見るであろう。わたしがあなたとともに行うことは恐るべきものである。

34:11 わたしがきょう、あなたに命じることを、守れ。見よ。わたしはエモリ人、カナン人、ヘテ人、ペリジ人、ヒビ人、エブス人を、あなたの前から追い払う。

34:12 あなたは、注意して、あなたが入って行くその地の住民と契約を結ばないようにせよ。それがあなたの間で、わなとならないように。

34:13 いや、あなたがたは彼らの祭壇を取りこわし、彼らの石柱を打ち砕き、アシェラ像を切り倒さなければならない。

34:14 あなたはほかの神を拝んではならないからである。その名がねたみである【主】は、ねたむ神であるから。

今日の使徒 6 : 7 と同じ表現が 2 度目に登場するのは、使徒 12 : 24 です。

使徒 12 : 24

12:24 主のみことばは、ますます盛んになり、広まって行った。

この直前には、ヘロデ王が教会を苦しめていました。
彼はヤコブを殺し、ペテロを牢に閉じ込めました。

使徒 12 : 20-24

12:20 さて、ヘロデはツロとシドンの人々に対して強い敵意を抱いていた。そこで彼らはみなでそろって彼をたずね、王の侍従ブラストに取り入って和解を求めた。その地方は王の国から食糧を得ていたからである。

12:21 定められた日に、ヘロデは王服を着けて、王座に着き、彼らに向かって演説を始めた。

12:22 そこで民衆は、「神の声だ。人間の声ではない」と叫び続けた。

12:23 するとたちまち、主の使いがヘロデを打った。ヘロデが神に栄光を帰さなかったからである。彼は虫にかまれて息が絶えた。

12:24 主のみことばは、ますます盛んになり、広まって行った。

政治権力者が神のみことばの広がりを止めようとしたが、王の権力よりも神の力がまさっていることを神は示されました。そして、神のみことばはますます広まりました。
この表現が使徒の中で最初に登場するのが、今日の聖書箇所にある使徒 6 : 7 です。

使徒 6 : 7

6:7 こうして神のことばは、ますます広まって行き、エルサレムで、弟子の数が非常にふえて行った。そして、多くの祭司たちが次々に信仰に入った。

ですから、私たちも OIC の働きをとおして神のみことばが広まることを望むなら、今日の個所の中から適用できる原理原則を見つける必要があります。

今日の個所から注目すべきことが 4 つあります。

それは、問題、解決、原則、結果です。

1. 問題（使徒 6：1）

弟子の数が増えるとともに、違った文化や言語を背景に持つユダヤ人たちも弟子になりました。

迫害が原因で、ユダヤ人はギリシャ全域に離散していたからです。

そのため、彼らは住んでいた地域の言葉を話し、その文化になじんで暮らすことになりました。ユダヤ人であることには変わりありませんが、エルサレム近辺にとどまったヘブル語を話すユダヤ人からはあまりよく思われていませんでした。

ギリシャ語を話すユダヤ人は、使徒たちが管理していた配給でちゃんと食料をもらっていないと苦情を言いました。

当時のクリスチャンは非常に貧しく、他に頼れる先のない未亡人は、毎日配給を受けていました。

わざと差別したのではないでしょうが、ギリシャ語を話す未亡人たちでその食糧配給をもらっていない人がいたのです。

神は旧約聖書で未亡人を養うと約束しておられます。

出エジプト 22：22

22:22 すべてのやもめ、またはみなしごを悩ませてはならない。

申命記 10：17-19

10:17 あなたがたの神、【主】は、神の神、主の主、偉大で、力あり、恐ろしい神。かたよって愛することなく、わいろを取らず、

10:18 みなしごや、やもめのためにさばきを行い、在留異国人を愛してこれに食物と着物を与えられる。

10:19 あなたがたは在留異国人を愛しなさい。あなたがたもエジプトの国で在留異国人であったからである。

使徒たちは、聖書の教えから、その責任をじゅうぶん承知していました。

そこで、その問題が使徒たちの知るところとなると、彼らはさっそく解決に乗り出しました。

2. 問題の解決策（2-6 節）

十二使徒たちは、解決策を教会に押し付けず、弟子たちを集めて、その問題について分かち合いました。

そして、こう言いました。「「私たちが神のことばをあと回しにして、食卓のことに仕えるのはよくありません。」

リビングバイブルにはこうあります。「私たち使徒が食料の配給の問題に時間をさくのは、よくありません。何よりも、神のことばを伝えることに専念すべきです。」

使徒たちは、ギリシャ語を話す未亡人のお世話をすることを軽視したのではありません。自分たちがその問題にかかわると、神のみことばを教える時間がなくなるとわかっての発言でした。

使徒たちが配給問題にかかわるなら、サタンが喜ぶことになります。というのも、正しく神のみことばが教えられると、聖霊の力によって、イエスを信じて救われるたましいが増えることをサタンは知っているからです。

気を散らせることは、サタンの巧妙な手口のひとつです。それ自体は必要なことや良いことですが、その時点でそれをするを神が私たちに求めておられないことに、気をそらされるような場合があります。

使徒たちが最優先させるべき務めは、神のみことばを伝え、教えることでした。

使徒たちの問題解決策は 3 節に記されています。

彼らは弟子たちにいくつかのことを伝えます。

まず、弟子の中から 7 人の人を選ぶことです。

ここで「選ぶ」と訳されたギリシャ語の単語は、慎重に入念に調べて適切な人を見つけるという意味です。

やる気があれば誰でもよいということではありません。
その務めは、単に食糧を未亡人たちに配布するだけではありませんでした。
次に、選ぶのは評判の良い人でなくてはなりませんでした。
これは、イエスの証人として良い評価を得ている人という意味です。
周囲の人たちがその証を認めている人です。
3 つめに、彼らは、聖霊と知恵に満たされた人でなくてはなりませんでした。
ルカが、聖霊に満たされているという資格だけでなく知恵もそこに加えているのは興味深い点です。
私自身、過去 30 年以上の経験から、聖霊に満たされ導かれていると口では言っていますが、その行いが賢明でないクリスチャンを多く見てきました。
神から与えられる知恵は、神にしか与えられない知恵です。
ヤコブ 3 : 13-18 には、神からの知恵に関するわかりやすい教えがあります。

ヤコブ 3 : 13-18

3:13 あなたがたのうちで、知恵のある、賢い人はだれでしょうか。その人は、その知恵にふさわしい柔和な行いを、良い生き方によって示しなさい。
3:14 しかし、もしあなたがたの心の中に、苦いねたみと敵対心があるならば、誇ってははいけません。真理に逆らって偽ることになります。
3:15 そのような知恵は、上から来たものではなく、地に属し、肉に属し、悪霊に属するものです。
3:16 ねたみや敵対心のあるところには、秩序の乱れや、あらゆる邪悪な行いがあるからです。
3:17 しかし、上からの知恵は、第一に純真であり、次に平和、寛容、温順であり、また、あわれみと良い実とに満ち、えこひいきがなく、見せかけのないものです。
3:18 義の実を結ばせる種は、平和をつくる人によって平和のうちに蒔かれます。

使徒たちの提案から、未亡人に食糧を配給する奉仕には、適切な資質を備えた適切な人が必要だということがわかります。
なぜなら、その人たちはこの務めのために神によって任命された代表となるからです。
その人たちが、食料をくすねるなど良くないことをしたら、教会全体の証が損なわれます。
教会は神を示す存在なので、神の評判を落とすことになります。
OIC で私たちがそれぞれどのような奉仕にかかわっていようと、大事なものは、神の栄光のために奉仕をすることです。
神が与えてくださる知恵を持ち、聖霊が内住しておられることを示す生き方が大切なのです。
4 つめに、これは公式の任命でした。
使徒たちは、選ばれた適切な人たちを未亡人の食糧配給という奉仕に公式に任命したことがこの個所からわかります。
その奉仕を任されているのが誰かを皆が知るかたちで、皆の前で公式に任命されたことは明らかです。
使徒たちは、未亡人への食糧配給にあたる適切な人を見つけられれば、自分たちは祈りとみことばの奉仕に専念できると弟子たちに言いました。
使徒たちは、最善のことをするために、良いことをするのを断らなくてはなりませんでした。
その最善のこととは、祈りと神のみことばの奉仕です。
幸い、使徒たちの提案は会衆全員にも受け入れられ、未亡人への食糧配給およびそれにかかわる業務を任せるために人々が任命されました。
ルカは、この務めに任命された 7 名の名まえを実際に記録に残しています。
その名前に特に重要性を感じないかもしれませんが、この 7 名の名まえはすべてギリシャ語の名まえです。
彼らは皆、ギリシャ語を話すユダヤ人の未亡人の必要に応えるために選ばれたギリシャ語を話すユダヤ人だったのです。
これは、やり取りの中で文化や言葉の行き違いが起きないようにする神の知恵です。

彼らが正式に任命される前、使徒たちは彼らに手を置いてこの働きのために聖別の祈りをしました。

ここまでで、問題の内容とその解決策を見てきました。では、この話の中から、私たちに適用できる原則を見つけましょう。

3. 適用できる原則

長老と執事の奉仕は、この状況から端を発していると思いますが、それは今日注目すべき適用できる原則ではありません。

私たちが認識すべきことは、神は適材適所で人を違った働きに召されることです。

新約聖書における長老や牧師は、祈りとみことばの奉仕に召されました。

彼らとその働きに専念できないと、教会が神のみことばから養われないので、霊的に弱くなります。それだけでなく、長老自身が神に召されて賜物を与えられた働きをしていないことになります。

「聖書教師のための使徒の働き解説本」の著者デービッド・クック氏は次のように語ります。「牧会指導者には、人からの非現実的な期待に応えようとする重圧がのしかかる。神によって召された働きそのものをしようとする重圧ではない。教会で牧師が職を退く主要因のひとつは、牧師はこうするべきであるという人々からの非現実的な期待に応えなければというプレッシャーを感じることである。」

これは OIC には当てはまりませんが、現代の多くの教会がこのような状況です。

私は一週間の仕事時間の 6 割を神のみことばを語り教える準備と祈りに費やします。

今日の個所から、もう少しその割合を増やすよう促されています。

そのためには、祈りと教えの働き以外の私の仕事を OIC の他の人に引き受けてもらう必要があります。

それらの働きを任せるには適切な人を見極め、訓練する必要があるので時間がかかります。

5 月 25 日にビブリカルカウンセリング入門セミナーを開いたのも、それがひとつの理由です。聖書の教えに則ったカウンセリングの訓練を受ける必要性があります。正しいかたちでカウンセリングの必要に応じるためですが、それだけでなく、牧師の負担を軽減し、牧師が聖書を教える働きと祈りに適切な時間を割り当てられるようにするためです。

今年の 11 月からビブリカルカウンセリング講座を受講しようと思う人は、ぜひ申し込んでください。

この秋のリトリートでは、クリスチャンの奉仕をテーマに特別講師を迎える予定です。私たちひとりひとりにとって、神に召された自分にぴったりの奉仕に就いているか確かめる良い機会になるかもしれません。

神から与えられた奉仕の務めという意味では、まだ実際に始めていないことがわかるかもしれません。

または、神があなたの将来にどのようなことを計画しておられるか知るチャンスになるかもしれません。

それが何であれ、必ず備えと訓練が必要です。

4. 問題に対処した結果 (7 節)

使徒たちが福祉関係の働きを任命した人々に任せた結果、神のみことばが広まりました。

自動的に広まったということではなく、使徒たちが祈り、神のみことばを語った結果です。けれども、使徒たちが祈ってみことばを語る時間を確保できました。

また 7 節で注目したいのは、大勢の祭司たちが信仰を持つようになったことです。

これは大きな出来事です。通常は、宗教的な人々ほど、福音を届けるのが難しいからです。

課題

あなたは、神の選ばれた奉仕で神に仕えようと思いませんか。

もしそうなら、その奉仕が何であるかを知るために人生を完全に明け渡す必要があります。

今、明け渡してはどうでしょう。

次に、神から与えられた働きにすでに就いて奉仕している人たちへの課題です。他にもたくさん良いことはありますが、それらに目を奪われることなく、神が求めておられる最善のことに集中しましょう。